

[野菜部門]

14. 2種の天敵を組み合わせた促成栽培ナス防除体系に適した天敵温存植物

[要約]

アザミウマ類に対する天敵（スワルスキーカブリダニ及びタバコカスミカメ）を利用したナスの促成栽培防除体系における天敵温存植物としては、スイートアリッサムが最も適している。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先]電話086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

県南の促成栽培ナスでは、ミナミキイロアザミウマの天敵として、スワルスキーカブリダニとタバコカスミカメが利用されている。そこで、天敵をより効果的に利用するために、既に天敵の保護に利用可能な植物として選抜されている草種の中から、天敵温存植物として最適な植物を選抜する。

[成果の内容・特徴]

1. 有望と考えられた供試3草種の中で、スワルスキーカブリダニ及びタバコカスミカメを最も多く温存するのは、スイートアリッサムである（図1、2）。
2. 天敵は花粉を餌とするため、温存のためには開花数が多い方が有利である。スイートアリッサム及びスカエボラは、ナスの栽培期間を通じて開花が認められるが、スカエボラは12月以降の開花数が少なく推移する。また、バーベナは11月上旬から3月上旬の期間、開花は認められない（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 天敵や害虫の生息数には圃場や年次によって変動がある。
2. 天敵温存植物（バンカー植物）には、ヒラズハナアザミウマ及びネギアザミウマなども発生するが、これらのアザミウマ類は高密度にならない限り、ナスに対して大きな被害を生じない。
3. その他の害虫では、スイートアリッサムにはハムシ類（キスジノミハムシ及びダイコンサルハムシ）、鱗翅目幼虫、スカエボラにはアブラムシ類、ハダニ類、鱗翅目幼虫、バーベナにはアブラムシ類、カイガラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類が発生する恐れがあるので、害虫の発生動向に留意し、必要に応じて天敵に影響の小さい薬剤で防除する。

[具体的データ]

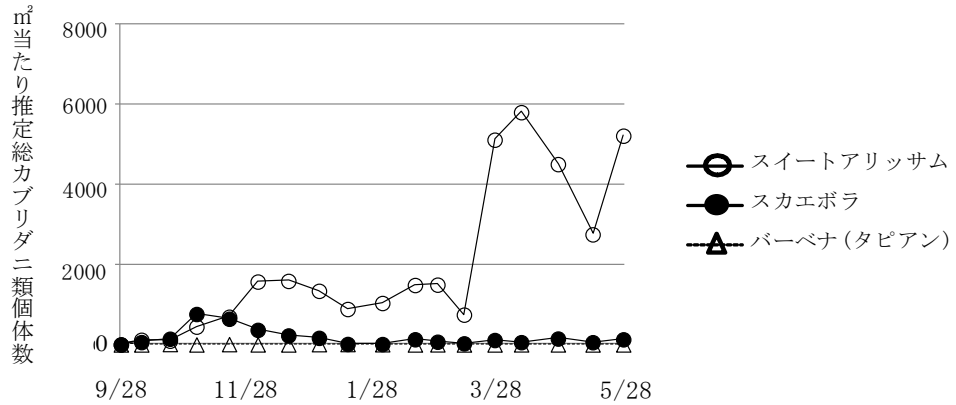


図1 植物上の推定総カブリダニ類個体数の密度推移

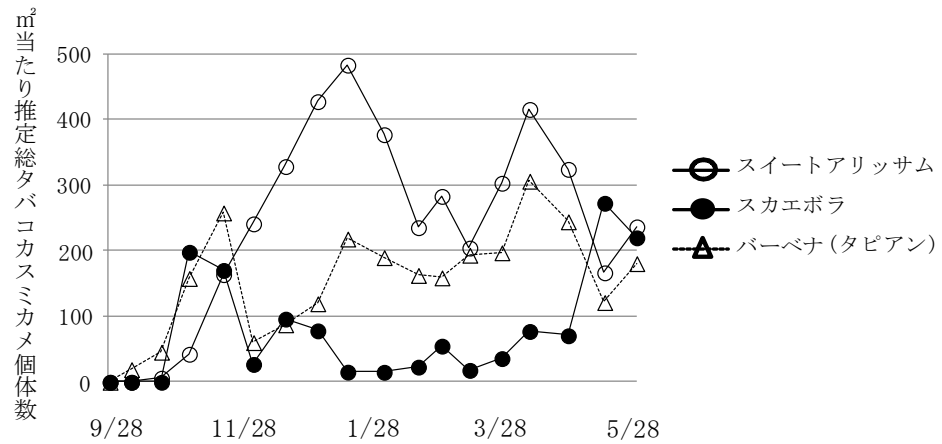


図2 植物上の推定総タバコカスミカメ個体数の密度推移

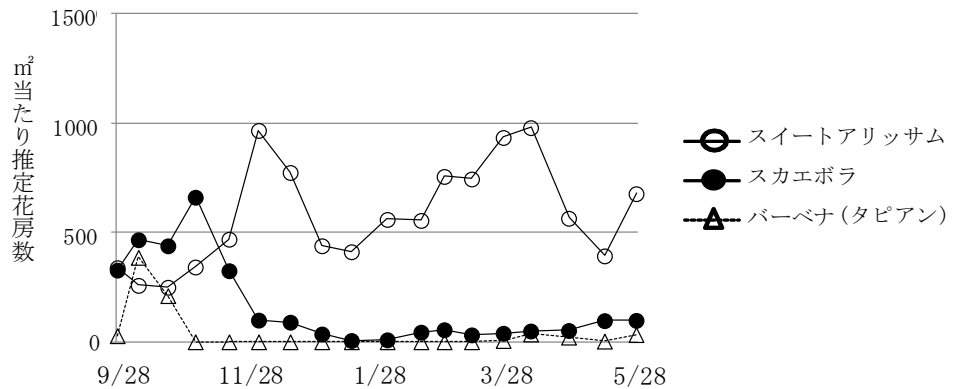


図3 各植物の花房数の推移

[その他]

研究課題名：促成栽培ナスのミナミキイロアザミウマに対する新たな天敵を組み合わせた総合防除体系の確立

予算区分：交付金（病害虫防除農業環境リスク低減技術確立）

研究期間：2013～2015年度

研究担当者：西優輔

関連情報等：1) 永井、飛川（2007）応動昆中国支会報、49：31-37

2) [長森ら（2010）岡山県農業研報、1：5-12](#)

3) 平成20年度試験研究主要成果、[37-38](#)、[39-40](#)